

【サンプル①】

「部長～！頑張ってください～い！」

「部長！ファイト～！」

そんな声援の中、部長はシュッシュッ...と細かくジャブを放ちましたが、馴れた身のこなし、そしてスッと構えた左手1本で軽くいなす京子さん。

「ふうん...ww、成る程ね。
ちょっとは形になってるじゃん？
でも...、そんな軽いジャブじゃねえ...。
いいかい？
パンチってのはね？
こうやって打つもの...だよ！」

京子さんがパンチを繰り返しました。
咄嗟に構えたガードの上からでも衝撃が伝わり
そんな鈍い音がし、その瞬間、部長の顔か

ら余裕が消えました。

そこからは立場が一転。

京子さんの連打が部長を襲いました。

「きゃ～！部長！」

「やだっ...！ぶ、部長ったら...一方的に攻められてますよ...！？」

京子さんが、さらにペースを上げました。
すると、さっきまでの勢いはどこへやら。
完全にガードを固めて防戦一方の部長。

「ほらほら～？どうしたの？
ガードばかりしてないで、もっと打って来たら？
おっと！
ボディーががら空きだよ...っと！
おらぁ！」

ドスッ。

今度はお腹に入りました。

「うぐっ...！」

部長の身体がくの字に折れました。
そして、そのままドサッとリングに倒れ込み
ました。

「あらら～？どうしたの～？」

ニヤニヤ笑いながら倒れた部長を見下ろす京
子さん。

「えっ！？M男部長...、ボディー一発でダウ
ンしちゃいましたよ！？」

「嘘っ！？弱っ...！」

私は思わずそう言ってしまいました。

だって、本当にあまりにもあっさり倒れてしまったんです。

まさかの1発でダウン！

部長はお腹を押さえたまま、リングの上で丸くなっていました。

痛みで声も出ないのか、涙目になって口をばくばくさせているだけでした。

さっきまでの偉そうな態度は、もうどこにもありませんでした。

女子に負けるわけがないと言っていた人が、たった一発で、完全に怯えた顔になっていたんです。

「カウントは無しだからさぁ...、さっさと立ちなよ？

ほら？あたしが立たしてやるよ！

...っと。

じゃあ続けようか？」

京子さんが部長の腕を掴んで、無理やり立た

せました。

部長は立たされても、足が震えていました。
もう構える余裕もないみたいでした。
普通なら完全にKO負けのシーンです。

「ま、待っ...。
待って...。ちょっと...」

小さな声で訴える部長。
さっきまであんなに強がっていた彼。
でももうこの時点で、部長は明らかに京子さ
んを怖がっていました。

「待たないよ。デスマッチなんだから」



【サンプル②】

「おい？何うずくまってんだよ？
立ちな...よっ！」

京子さんが部長を小突きました。

「あれ...？
プッ...！
ねえ(笑)？
こいつ...！なんか泣いてるよ～www！」

部長の顔は、涙で濡れていました。
痛みと恐怖で、もう完全に泣いてしまっていたんです。

「うう...ヒッ...ヒック...。
もう.....。
もう許してください...。
ごめんなさい...。」

その声は、半泣きというより、ほとんど泣き声でした。

さっきまで女子を見下していた男子とは思えませんでした。

「えっ...、やだ...。
ちょっと...、嘘でしょ...？

ねえ...里美さん...？

部長ったら...、男子の癖に女子にやられて泣かされるなんて...その...、いくらなんでもカッコ悪過ぎ...ません...？」

「そ...、そんなこと言ったら...、可哀想でしょ...！で...でも...。確かに...カッコ悪いわ...。」

私も、そう思ってしまいました。

部長は試合前、あんなに偉そうだったんです。

女子のお遊びだとか、女に負けるわけがない

とか、散々見下していたんです。
それなのに、実際には最初の一発で怯えてしまっ
て、お...おちんちんを蹴られても抗議すること
も出来なくてはいつくばって、最後にはリング
の上で泣いて許しを乞うだけになっていました。
あまりにも無様でした。

「ほらほら～？男の癖に情けね～なあ
www？

根性見せなよ～？

えっ...？

僕の負けです。

許してください...？

wwwwww～！

じゃあ、あんたは今後、あたしらの奴隷って
ことで、あたしらの命令には絶対服従って約
束するなら...、許してやるよ！」

「ど...奴隷？絶対服従...!?

そ、そんな約束できるわけ...！」

余りの情け容赦無いその言葉に私は流石に抗議をしようとリングに駆け寄りました。でも、その時部長の口からこぼれた言葉は....。

「は、はい....。
言う通りにします....。
だから...もう、勘弁して...ください....。」

涙と汗でぐしゃぐしゃになった顔で、京子さんを見上げています。
もう反抗する気配はありませんでした。
その声は情けなく震えていました。
負けを認めるというより、これ以上痛めつけられないためなら何でもするとでも言うような顔でした。

「えっ...？
言う通りしますから...許してください...？
wwwwww～！？」

ねえ？聞いた？

今日からあたしらに絶対服従だってさ～
www！」

相手コーナーは大いに盛り上がりました。

「wwwww～！
あいつ泣きながら命乞いしてるよ～！
カッコ悪～いwww！」

京子は勝ち誇った笑いを浮かべながら...

「まあ、そこまで言うんなら...www、取り敢えずはこの辺で勘弁してやよ。
但し...、あたしらMMA同好会にきちんと詫びをいれたら...だけどね？
あ、後さ？
詫びの後にはちょっとした罰ゲームも与えてやるからね！
ってことで～、ほら？試合終了だよ～！」

カンカンカン！とゴングが鳴りました。



【サンプル③】

呆然とする部員達。

「あ...あっさり負けちゃいましたよ...。なんか...弱すぎません...？」

「そ...そんな...。うちの部長が...女子相手に、こんなあっさり負けちゃうなんて...。」

「って言うか...、女子に負けて...泣きながら謝って許してもらうなん出...、な...情けなさ過ぎですよ〜。」

「さてと...じゃあ先ずはあたしたちに詫び入れてもらおうか？

ほら？グローブはずしな。

あっ...、あんたらボクシング部員も証人になってもらうから、ちゃんと見ときなよ？」

「ってことで...ほら？

リングに立って詫び入れな？」

「但し...その、トランクス脱いで...

マッパ...

でなwwwww！」

「プッ...！wwwww～！

えっ!?マッパ(笑)！？

まじッスか？」

「そう...ww、マッパ...！

全裸！

スッポンポン！

フ〜ル〜チ〜ン!wwwww！

ここにいるうちらと...あんたらボクシング部の女子部員、全員の見ている前でwww、裸になって！チンポ丸出しで詫びいれるんだよwww〜！」

その言葉を聞いた瞬間、リングの周囲がざわっとしました。

「やだっ！嘘でしょ！？

スッポンポンで...謝るなんて...！」

「そんな...酷い！いくらなんでも...そんなことできるわけ無いじゃない！」

私たちボクシング部の女子部員は、最初は意味が分からずに固まりました。

でも、少し遅れて、それがどういう命令なのか理解してしまって、何人かが顔を赤くしました。

部長は青ざめて、唇が震えていました。

「え...？
そ、そんな...。
それだけは...勘弁してください...。
お願いします...。」

さっきまでの部長なら、きっと怒鳴り返していたと思います。

「ふざけるな」とか、「誰がそんなことするか」とか、偉そうに言っていたはずです。
でも、今の部長は...。

京子さんに逆らえば、また痛めつけられる。
それが怖くて、もう最初からお願いすること

しかできなくなっていたんです。
部長はリングの上で、膝をついたまま首を横
に振っていました。

「で、できません...。
そんなの...無理です...。
お願いします...それだけは...本当に許してく
ださい...。」

「ああ...？嫌なら別にいいんだよ？
このまま続けて痛めつけてやるよ？」

...えっ？
言う通りするから...？やめてください...？
聞いた～www!?
こいつ、今からここでパンツ脱いで、スッポ
ンポンのチンポ丸出しで詫び入れるってよ～
www！」

部長は、その死ぬ程恥ずかしい屈辱的な命令を受け入れたんです。
信じられませんでした。

「えっ...！？そんな...、パンツ脱ぐとか...嘘よね？」

「じゃあ、あたしが3つ数えたら自分でそのトランスおろしてチンポ見せな！

じゃあ行くよ？

3~

2~

1~

0~！」

次の瞬間、MMA同好会の女子たちが、悲鳴
混じりに笑いました。

「wwwww～！マジで脱いだよ～www！」

「うわぁ～www！やば～www！あいつ本
当にフルチンになったよ～www！恥ずかし
～www！」

